

○平成19年度 岐阜県森林研究所研究成果発表会『生活にいかそう、豊かな里山の森林資源』の発表内容

### **(1) 「地域の森林資源を有効活用した研究事例の紹介」**

**森林資源部長 坂井至通**

当研究所では、キノコ、山菜、果実など里山の資源を活用した新しい製品作りを検討してきました。

まだ、商品として店頭には並ぶまでの研究成果には至っていませんが、樹木の葉の成分研究や山菜の栽培方法の検討、県内で採取した野生キノコの人工栽培、薬用樹木を植えた森林づくりを始め、財団法人岐阜県産業経済センターの「ミニ経営会議」事業を活用した地元での「飛騨朴葉茶」商品化への取り組みなど、森林研究所におけるこれまでの研究成果を紹介します。

### **(2) 「里山に自生する樹木の葉がもつ抗酸化活性」**

**森林資源部 主任研究員 上辻久敏**

ブドウや緑茶がよく健康によいといわれます。その理由の1つとして、ポリフェノールと呼ばれる成分が含まれていることがあげられます。ポリフェノール類には、強い抗酸化活性を示すものがあり、多くの研究が行われています。ブドウや緑茶だけでなく、自然界に存在する植物にはポリフェノールを含むものがたくさんあります。

今回、里山でよく見かける樹木の葉に含まれる抗酸化活性についての研究結果を紹介します。

### **(3) 「山菜として活かせるショウマ類（サラシナショウマ、トリアシショウマ、ヤマブキショウマ）の利用」**

**森林資源部 専門研究員 茂木靖和**

甲信越、東北地方ではサラシナショウマ（キンポウゲ科）、トリアシショウマ（ユキノシタ科）、ヤマブキショウマ（バラ科）など、植物種の異なるショウマ類が山菜として食べられています。岐阜県では馴染みの薄い山菜ですが、飛騨地域や郡上地域を中心に自生しています。それぞれ食感や味が異なり、弁当などに利用できないか検討してきました。最近の研究では、サラシナショウマに健康を危惧する成分が含まれることも明らかになってきています。

これら3種類のショウマの利用に関する取り組みについて紹介します。

### **(4) 「キノコ資源の活用～食用キノコを栽培する～」**

**森林資源部 専門研究員 水谷和人**

キノコは国内に5,000～6,000種あり、このうち食用キノコは約300種あるといわれています。しかし、栽培されているキノコは限られており、これまで栽培されてい

ない新しいキノコの栽培技術を開発することが求められています。また、岐阜県内に存在する栽培に適したキノコの遺伝資源を探し出すことも重要です。

ここでは、県内で採取した野生キノコなどを利用したウスヒラタケ、ムキタケ、ホンシメジ、ハタケシメジの栽培についての取り組みを紹介します。

#### **(5) 「薬木の植栽による針広混交林の造成 ～全国植樹祭の記念植樹会場～」**

**森林資源部 専門研究員 高井和之**

かつて里山として利用されていた森林は、スギ、ヒノキの植栽により、人工林の占める割合が高くなりましたが、かつての広葉樹林を取り戻したいという要望も高まっています。平成18年に開催された全国植樹祭では、人工林のなかを一部伐採し、そこに薬木等を植栽することで、針広混交林の造成を試みました。今回、植栽から1年半が経過し、植栽木の状況を調査しましたので、その結果を報告します。

#### **(6) 「人工林資源の効率的生産のための作業システム～間伐作業の機械化～」**

**森林環境部長 古川邦明**

比較的里に近いスギやヒノキの人工林でも、手入れのための経費が高くなるなどの理由から間伐が行われず、早急な手入れが必要とされる山が多くあります。間伐を促進し貴重な森林資源を活用するためには、間伐作業の機械化を進め間伐でも収入が得られるようにする必要があります。

そこで、これまで県下各地での調査から明らかになってきた、間伐に適した作業方法について紹介します。